

少年非行はなくせるのか

鳥取県鳥取市立桜ヶ丘中学校 3年 福田 勇仁



僕は、学校で行っている活動で防犯についてをやっているので、この作文を書き、少年非行について学んだりそれをなくすことはできるのか、そして減らすことはできるのかを考えていきたい。

まず「少年非行」という言葉についてくわしく知らないので調べてみた。そこには、「14歳以上20歳未満の少年による犯罪行為や、14歳未満の少年による触法行為や虞犯という3種類の行為又は行状を総称する概念である」とされている。主な例は、窃盗や傷害や深夜徘徊など様々なものがある。

次に少年非行はなくせるかどうかを考えた。あくまで僕の意見は、なくせれないと思う。理由は二つある。

一つ目は、家庭状況と非行少年が関係しているからだ。刑法犯少年の両親の状況について示されているグラフをみると、一般少年に比べ、非行少年の方が父母の欠損率が高い、さらに、子供からみた親のしつけについて示されているグラフをみると、一般少年に比べ、非行少年の方が「親から愛されていないと感じる」と答えた人が多かった。これらから考えると、少年非行の原因の内に、家庭状況が含まれていると思う。そして、家庭状況の多くは親のトラブルであり、少年に意思はない場合が多い。これが一つ目の理由である。

二つ目は、人間だからだ。どれだけ対策しようが少年非行に興味がある人はしてしまうし、せざるを得ない状況にある人もいるだろう。その為、完全に少年非行をなくすのは難しいと思う。だが、減らすことは十分に可能なはずだ。少し前に少年非行について聞くことのできる機会があり、そこではもしも犯罪をしてしまいそうな場面で、それをしてしまった時の想像をすることが大切だと学んだ。さらに、今ではセカンドチャンスというものがあり、もし少年非行をしてしまっても、そこから新しい人生を歩むというものだ。これらの考え方や活動を広めることで少年非行を減らせると思うし、その後の更生で社会から見た正しい生き方ができると思う。

少年非行とは、様々なものや状況が重なっておきてしまうことで、それについて学んだことを僕も広めていきたいし協力していきたい。